

京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科・京都外国語大学ラテンアメリカ研究所主催

後援：駐日ブラジル大使館

ブラジル独立 200 周年記念シンポジウム

## 「社会の鑑としてのブラジル文学」

日時：2022 年 12 月 10 日（土）13 時～16 時

場所： 京都外国語大学 452 教室（対面形式）並びに Zoom によるオンライン形式

### <講座案内>

この度、京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科および京都外国語大学ラテンアメリカ研究所は、2022 年がブラジル独立 200 周年の節目の年であることから、学術シンポジウム「ラテンアメリカにおけるブラジル文学」を開催する運びとなりました。本シンポジウムは、ブラジルポルトガル語学科教員有志が大阪大学の平田恵津子先生と行った共同研究「ブラジル短編小説アンソロジーを編む—20 世紀ブラジル社会の再構築の試み」の成果として出版する、『ブラジル文学傑作短篇集』（水声社、2022 年 12 月出版予定）の刊行記念の意味合いもあります。

日本でラテンアメリカ文学といえば、事実上スペイン語圏ラテンアメリカ文学を指していますが、ブラジルもまたラテンアメリカの一部であることは言うまでもありません。したがって、ラテンアメリカ文学にブラジル文学も含めるべきだとする観点があってもおかしくないとはいえ、歴史的経緯を踏まえると同一に論じることが難しいのもまた然りです。これを踏まえた上で、「ラテンアメリカにおけるブラジル文学」について、スペイン語圏とポルトガル語圏の両方の文学の翻訳を多数発表されている且敬介先生に基調講演をしていただきます。

その後、ブラジル文学の研究者たちが、文学を通して見えてくるブラジル社会について、発表いたします。本シンポジウムを通じて、ブラジル文化の多様性と豊かさ、社会の一端を皆様にお伝えできればと考えております。

### <プログラム>

#### ・開会の挨拶 (13:00)

岐部雅之（京都外国語大学）

「ブラジル文学に描かれたサッカーのかたち」

#### ・基調講演 (13:05-13:55)

且敬介（翻訳家、明治大学）

「ラテンアメリカのなかのブラジル文学」

フェリッペ・モッタ（京都外国語大学）

「アニーバル・マシャード著『サンバガールの死』

におけるカーニバル、人種、ジェンダー」

#### ・研究発表 (14:00-15:20)

江口佳子（常葉大学）

「リジア・ファグンジス・テーリス『三人の女たち』

における多様な声」

#### ・休憩 (15:20-15:30)

#### ・パネルディスカッション (15:30-16:00)

タイトル「ブラジル社会の鑑としてのブラジル文学」

コーディネーター 伊藤秋仁（京都外国語大学）

平田恵津子（大阪大学）

「近代芸術週間 100 周年に寄せて」

#### ・閉会の挨拶 (16:00)

